

足助の街並歩きを楽しみましょう



ちょっとステキなマンリン小路

防火を意図して漆喰で軒先まで塗り固めた塗籠造りの町家が建ち並び、今日にその面影を伝えています。

妻入りや平入り（※注1）の変化に富んだ家並みが約2Kmに渡って続き、平成23年6月愛知県で初めての国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

足助を通る現在の国道153号線は、江戸時代には伊那街道、明治時代には飯田街道と呼ばれた街道で、中山道の脇往還として庶民の生活にとって重要な道でした。この街道は、三河湾で採れた塩や海の産物を信州や美濃地方へ運び、帰りには山の産物を持ち帰って、尾張や三河方面に送り出していました。天保年間（1830～43）には塩問屋が14軒もあったといわれています。

中馬館は大正元年、稲橋銀行足助支店として建てられた建物で、昭和57年に閉店となり、現在は資料館として自由に見学出来ます。

かつては取り壊されて駐車場になる運命にあったのを、町並みの大事な顔であるということから、「足助の町並を守る会」の有志が利子補給をして取り壊しを延ばしてもらい、その後、町が取得し、資料館として残っています。



敵めし過ぎる中馬館

足助へ遠足に行くと言ったら「あんな何んにも無い所へ何しに行くのえ？」と一笑されてしまい落ち込みました。

何にも無いことは無い、道も家も川も山も有ったよ。とやり返しておきましたが、ほんとうに何も無かったか、いろいろ有って良かったかは、皆さんの心がけ次第ですよ。

どだい園長の案内する所は一般人には「何も無い」所ばかりですから、期待しないで行って下さい。

足助の街並みは戦国時代に原型が形成され、江戸時代に今のような町割りが出来上がりました。

現在の街並みは安永4年（1775）の大火後に、



マンリン書店・右側がマンリン小路

主に足助の証行（※注2）金融、交通、街並みの資料を展示しております。

頑張っ中馬館まで行きますよ。トイレもあって裏は足助川の流れの素晴らしい景観ですよ。

※注1 妻入り=入口(玄関)が妻側にある家
平入り=入口が長手方向にある家

※注2 証券会社や銀行など